



整形外科と接骨院



整形外科部長・小野寺 剛

初期治療は慎重に

皆さんは整形外科医が何を専門に扱う医者なのかご存じでしょうか？ 多くの人にとって「骨折や関節脱臼を治す医者」という認識だと思います。それなら接骨院でやってることと同じじゃないか？と思われるかも知れませんが、実は「整形外科」と「接骨院」は全く違います。おそらく勘違いされている方も多いのでは？と思いつつ、なかなか説明の機会も無いのが実際で、また接骨院で健康保険や、交通事故の自賠責保険などが利用されているケースがあるので、なおさら話をややこしくしています。

少し整理をすると、整形外科は、内科や外科、眼科、耳鼻咽喉科と同じく医学の一分野

で、大学の医学部で勉強して、卒業。さらに研修を受けながら修練をして専門医試験に合格すると初めて整形外科専門医になることが出来ます。

一方、接骨院は正式には柔道整復師という名称で、国家資格ですが、医学部で医学を専攻することはありません。たいてい高卒後、3年間専門学校に通って、柔道整復師の国家試験に合格したら直ちに開業というパターンのです。

大事なことは、法律上、医師以外が医療行為を行うことは禁じられていますので、接骨院で行われている「治療」と称する行為は、医療行為ではありません。これは施術と呼ばれており、打撲、捻挫、脱臼、骨折等の急性外傷に対して、応急的もしくは、医療補助的方法により、その回復を図ることを目的として行われるとされています。

簡単に言えば、法律上、医師の同意なしに接骨院が扱えるのは、捻挫と打撲だけで、骨折や脱臼は、応急処置のみを扱って良いとされています。

しかし、レントゲン装置（これを扱うにも医師の資格か放射線技師の資格が必要）も無いのに骨折と打撲、脱臼と捻挫を診断できるのでしょくか？ そのため、接骨院は医師の同意が要らない「打撲」として長期間に施術をし、実はそれは骨折で、変形治癒となつて後遺症を残すケースにも時に遭遇します。

また、当然のごとく慢性疾患である腰痛や、膝関節痛、肩関節痛などにマッサージや電気を当てるのも医療行為ではありません。それは施術ですので保険診療として保険証を使うことはできません。同じ内容の医療行為も病院やクリニックで受けられることもあるでしょうが、内容が同じでも医師の管理下であれば「医療行為」で、管理下になければ「施術」です。前者に限り医療保険が使えます。

もし、これらの施術を医療保険で行えば、違法です。あなたの慢性疾患も「捻挫」という疾患名で脱法行為が行われている可能性があるのです。

何よりも、整形外科専門医は、診断、治療能力が一定レベルにあると学会が認定しており、薬や注射治療、手術の知識・経験も必要なので、それ以上の経験値に差があったとしても、接骨院が行う医療行為のまねごとなどでは、とうてい及ぶものではありません。

自分の健康を守るのに無知であってははいけません。「知らなかった」では取り返しのつかないことがあります。接骨院にかかる前に整形外科を受診して下さい。「受付時間や予約の関係で当院を受診できない」ような方は、近隣に整形外科専門の開業医もありますので、初期治療に失敗しないように、適切な医療行為を受けるようにして下さい。

定期的な健診や人間ドックの大切さ



A5F 師長・星 真理子

早期発見・早期治療

私が現在勤務している A 棟 5 階病棟は、内科の急性期病棟です。高齢化社会に伴い、入院患者様も高齢な方が多く、循環器疾患や脳血管障害の患者様が多い病棟です。

最近、ポリペクトミーという内視鏡的ポリープ切除を目的で入院される患者様が増えて来ました。健診や人間ドック等で発見され早期癌と診断されています。

内視鏡的ポリープ切除術は、開腹手術に比べて、患者様への身体的負担が軽く、5～7日で退院されています。開腹手術をしないで治療が出来るのかと心配される方もいらっしゃると思いますが、切除したものは組織検査を行いますべて取り除くことが出来るか診断することができます。

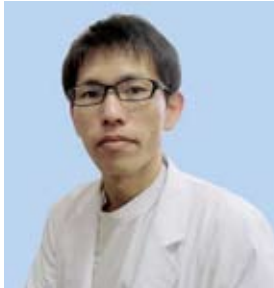
消化管の癌は、内視鏡で完治できる時代に

なりました。しかし、完治できるのは早期の癌だけで、それらはまず症状を起こすことがありません。内視鏡で完治できる癌を見つけるには、症状が出てからの検査では遅いのです。

医学の進歩もあり、血液検査で癌の診断が出来るようになってきた今、健診や人間ドックでの定期的な検査の必要性を痛烈に感じています。当院では、健康管理センターで人間ドックを行っており、皆様様が健康で生活できるようサポートさせていただいています。

また、治療のため入院した際には不安なく治療が受けられ、安心した入院生活が送れるよう、これからもスタッフ一同取り組んでいきたいと思っています。

形成外科のお仕事



形成外科医師・土屋裕人

目に見える病気を 取り扱います

いわき地区で形成外科を標榜する病院は少なく、形成外科が普段どのような診療を行っているかご存じない方も多いかと思います。

形成外科は戦傷者の傷跡や組織欠損による醜形・機能障害をより良く治すべく発展してきました。皮膚科が皮膚の病気を飲み薬や塗り薬で治すのに対し、形成外科は目に見える病気を手術で治療します（もちろん手術が必要ない病気であれば、手術以外の治療法を選択します）。

主な仕事は外傷と皮膚腫瘍・皮下腫瘍の治療で、一般病院の形成外科では全手術件数の大半がこの二分野で占められます。

以下に、呉羽総合病院 形成外科で今後扱っていく疾患を列挙していきます。

● 外傷・熱傷

ケガの治療においてはキレイに縫うことはもちろん、感染させないこと、機能障害を残さないことが重要です。切創、裂創、挫創、刺創、咬傷、皮膚欠損、トゲや石・ガラスなどの異物埋入など、あらゆる部位のケガを治療します。汚染創や損傷の激しい傷、深い傷こそ形成外科にご相談下さい。

熱傷は体表面積の10%程度までなら部位や深さによらず対応が可能です（※気道熱傷を合併する場合は対応できません）。

● 顔面外傷

顔は常に人目に晒される場所であるとともに、まばたき、発語、摂食、表情によるコミュニケーションなど機能面でも極めて重要です。皮膚軟部組織の損傷だけでなく顔面骨折（眼窩、鼻骨、頬骨・頬骨弓の骨折）の治療も行います。上下顎骨骨折については歯科口腔外科の協力が必要であり、現在対応を見合わせております。

● 手の外科

手は顔とともに特殊な領域で、繊細な動きを成り立たせるため極めてデリケートな構造をとっており、機能障害を残さないようにするには知識・経験と高い技術が要求されます。

外傷、感染、癒痕拘縮、突き指、骨折、腱断裂、神経損傷、指関節の可動域制限、関節炎、腱鞘炎（ばね指、ドケルバン病など）、手根管症候群、デュブユイトラン拘縮、腫瘍（皮膚・皮下・骨腫瘍、ガングリオン）、爪の病気などの治療を行っております。

● 先天異常

病院の性質上、対応できる年齢、疾患は限られますが、ご相談は随時受け付けております。

● 腫瘍

良性・悪性に限らず、顔面（頭皮、眼瞼、口唇、耳介含む）から四肢体幹、爪先に至るまで、あらゆる部位の皮膚腫瘍・皮下腫瘍の治療を行います。腫瘍の切除後に組織欠損が生じた場合は、適宜植皮や局所皮弁、手術用顕微鏡を用いた遊離皮弁による再建術を行います。

● 乳房再建 いわき初!!

この春エキスパンダー/インプラントによる二次再建の施設認定を受け、年内には当院外科の協力のもと一次再建にも対応する予定です。**乳房再建の施設認定はいわき地区では初となります。**自家組織による再建についても対応を検討中ですのでご相談ください。

● 癒痕・ケロイド

ケガや手術後の傷跡と、体質によって生じるケロイドについて、赤み、盛り上がり、色素沈着、痛み・痒み、醜形の診察、ケア、治療を行います。

● 難治性潰瘍

褥瘡（床ずれ）、糖尿病性潰瘍、末梢動脈疾患（PAD）、静脈うっ滞性潰瘍や、外傷・熱傷その他の治りにくい皮膚潰瘍の治療のほか、末期癌皮膚転移の浸出液・悪臭に対する治療も行います。

● その他の疾患

足の疾患（陥入爪、巻き爪、爪白癬、胼胝・鶏眼など）、まぶたの疾患（眼瞼下垂、逆さまつげなど）、体幹の疾患（腋臭症、陥没乳頭、毛巣洞、臍突出症：でべそなど）、リンパ浮腫、ざ瘡（ニキビ）の治療を行います。

● 美容外科・保険外診療

近日 AGA（男性型脱毛症）と睫毛貧毛症に対する薬剤治療を開始する予定です。コラーゲン・ボトックス注射やシミ・刺青のレーザー治療のほか、重瞼術や除皺術といった美容外科小手術への対応も検討しております。

お分かり頂けましたでしょうか。

形成外科は傷をキレイに縫うだけの診療科と捉えられがちですが、実際はこのように多岐にわたる仕事をしています。いわき地区の方々のQOL（生活の質）向上のため尽力させていただきます。

今後とも呉羽総合病院 形成外科をどうぞ宜しくお願い致します。



トピックス

第90回常磐医学会

「最優秀賞（常磐医学会会長賞）」受賞

当院が所在するいわき南部地区の高齢化率は、28%と高く、地域包括ケアシステムの構築は急務となっております。

当院では平成22年より、地域包括ケアシステムの構築を目指して、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、介護支援専門員連絡協議会と共同で、「在宅医療・介護の多職種が集う顔の見える連携」に取り組ん

で参りました。

このたび、常磐医学会で今までの取り組みを発表する機会を頂き、また「最優秀賞」を受賞できたことは、まことに光栄です。これを励みに「顔の見える連携」を継続していきたいと思っております。

当院がいわき南部地区の医療と介護の窓口・情報集約・コーディネート機能の役割を



果たすことで、医療と介護が必要な高齢者が住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らせるように取り組んでいきたいと思っております。

地域連携支援室 高木 孝子

合同研修会および連携のつどい

「第9回いわき南部地区在宅医療・介護多職種連携のつどい」の報告



質問に答える医師

平成26年11月27日（木）、勿来市民会館に勿来・田人地区の多職種総勢100人が集いました。

「がん疼痛緩和に必要な知識」と題して当院副院長・緑川医師の講演と多職種による模擬地域ケア会議が行われ、活発な意見交換がされました。



模擬地域ケア会議の様子

「第10回いわき南部地区在宅医療・介護多職種連携のつどい」のお知らせ

日時：5月29日（金）18:30～
場所：太平洋健康センター 勿来温泉 関の湯
内容：講演「死が近づいたとき」
多職種リレートーク
詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

- 勿来・田人地域包括支援センター
TEL：0246-63-2140
- 地域連携支援室
TEL：0246-62-3178

● 新任医師紹介



乳腺外科・長塚 美樹

本年1月より、毎週木曜、乳腺・一般外科外来を担当させていただいております。長塚美樹と申します。平成14年杏林大学卒で、今年で医師13年目となりました。

3年前まで、出身である秋田県由利本荘市で一般外科をしておりましたが、長男の小学校入学を機に、主人の実家のあるいわきに引っ越してまいりました。

いわきに引っ越してきて一番驚いたことは、冬でも外に洗濯物やお布団を干すことでした。秋田は日本海側ですから、冬場数カ月間は暗い空に覆われ、雪も結構降りますので、部屋干しが当たり前でした。いわきは晴れる日が多く、気持ちも晴れ晴れしますし、子供を育てる環境としてもいいと感じます。

昨年より、専門を乳腺外科にするべく、全国的にも有名な郡山の星総合病院の乳腺外科での研修を開始しました。

最近、乳癌に対する社会的関心が増し、乳癌検診の受診による乳癌発見率も上がってきました。そして、インターネットの普及とともに、患者様が知り得る情報も増え、専門医指向の方も増えたように感じます。そのような患者様に安心して治療を受けて頂けるよう、そして最良の治療を提供できるよう、これからも努力して参るつもりです。

どうぞよろしくお願ひいたします。



整形外科・原田 和弘

初めまして。4月1日よりお世話になっております整形外科の原田と申します。まだ、経験が浅く、慣れない事も多いですが、患者さんの力になれるよう、一所懸命頑張ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

♪ インフォメーション ♪

2015年5月12日 開設

メディカルサロン すまいる

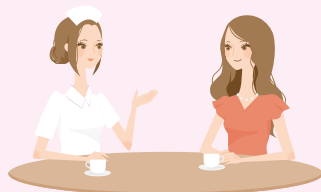
(がん哲学外来)



呉羽総合病院 副院長

緑川 靖彦

(外科・がん緩和医療・化学療法担当医)



ご挨拶

がん患者数は増加の一途をたどり、今や2人に1人が、がんに罹る時代です。がんに罹ると身体的苦痛のほか、精神的苦痛、スピリチュアルな苦痛に苛まれると言われてい

ます。多くの人は、自分自身または家族など身近な人が、がんに罹った時に初めて死というものを意識し、それと同時に、自分がこれまでいかに生きてきたか、これからどう生きるべきか、死ぬまでに何をなすべきかを真剣に考えます。

私たち医療従事者は、患者さまのこれらの苦痛に対して取り除くように精いっぱい努力致しますが、完全に取り除くことは困難です。

そこで、このたび呉羽総合病院に「**メディカルサロン・すまいる (がん哲学外来)**」を開設致しました。

一般の外来とは異なった**自由な交流の場**です。がんと診断された方、治療を受けている方、そのご家族様、また、がん以外の慢性疾患でお悩みの方など、どなたでも自由に参加できます。

いろいろな悩みをお持ちの方が集い、語り合う場をご用意させて頂きましたので、ぜひお立ち寄りください。「**メディカルサロン・すまいる**」に立ち寄ってくださることで、有効な解決策が生まれることを願っております。

私たちスタッフ一同は「がんやその他の病気であっても尊厳を持って人生を生き切ることのできる社会」の実現を目指し、より多くのがん患者様・慢性疾患の患者様・ご家族様などが垣根を越え、様々な方と対話することにより、「**病気であっても病人ではない**」安心した人生を送れるように寄り添っていきたく思っております。

- 日時: 毎週火曜日
午後2時から4時まで
- 場所: 呉羽総合病院健診センター
(人間ドック控室)
- 内容: 病気のこと、食事のこと、趣味のこと、いろいろなことを気軽に話し、自由な時間をお過ごし頂けます。
- 参加対象者: がんと診断された方、治療を受けている方、そのご家族様、また慢性疾患でお悩みの方など、どなたでも自由に参加できます。

※ **申し込みは不要です。**上記の時間・場所にお集まりください。医師、看護師、ソーシャルワーカーなどのスタッフが参加します。詳細については地域連携支援室までお問い合わせください。

■ 地域連携支援室
TEL: 0246-62-3178

働きやすい職場づくりを目指して

社団医療法人呉羽会では、2013年12月から院内保育園として「くれば保育園すまいる」を開設しております。育児休暇から復職したスタッフからの評判も良く、2015年4月現在で、15人のお子さんをお預かりしております。園長先生をはじめ、保育園の先生方も皆、とても頼りになる先生ばかりで、お子さんはもとより、保護者からの信頼も抜群です。

さらに新年度からは交代勤務者の休日数を15日に増やし、116日としました。昨今、盛んに叫ばれているワークライフバランス向上の一環として、オンとオフのメリハリを意識した勤務体制にすることにより、充実感を得られる仕事と休暇のバランスに配慮しています。

また、復職支援研修を無料で実施しており、「働きたいけど少し不安…」と感じている方でも安心



して働くことができます。詳しくは下記までお問い合わせください。

■ お問い合わせ / 看護部: 水沼、渡辺
■ TEL: 0246-63-2181

泌尿器科外来新設のお知らせ

4月より泌尿器科外来を新設いたしましたので、ご案内申し上げます。
診療日時: 第1第3木曜日 14:00~17:00 (受付13:30~16:00)

地域連携支援室

- TEL. 0246-63-2181 【代表】内線 168
- TEL. 0246-62-3178 【直通】
- FAX. 0246-62-2035
- E-mail t-takagi@kureha-hosp.com
- <http://www.kureha-hosp.com/>

■ 発行 社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院
〒974-8232 いわき市錦町落合1-1
TEL. 0246-63-2181
FAX. 0246-63-0552
URL <http://www.kureha-hosp.com/>
発行人 中村 有二
編集 地域連携支援室